

森の公園くらぶ通信⑧ 2018. 2. 27

【テーマ】
季節を感じてみよう♪



まだまだ寒さは続いています、少し寒さが和らぐような瞬間があったり、花粉症の話題など…うっすらと春を感じることも増えてきたのではないのでしょうか。近頃では、春には花粉症、夏には熱中症、冬にはインフルエンザ…ニュースや店頭で売られるもので季節を感じることも多くなりました。

でも、やはり季節は『五感』でキャッチしたいものです。春の兆しを見つけたり、鳥の声を聞いたり、花の香りを嗅いだり…風の温度の違いを感じたり、旬のものを味わったり…

日本には四季があることで、日本人はたくさんの恩恵を受けてきていると思います。季節ごとに起こる自然現象によって暮らしの知恵を得て、その季節に合った食べ物を食べ、季節で巡ってくる行事をおこなう。シンプルであるようで、実はとても奥深いサイクルだと思います。季節ごとに思い出すもの、出来事、曲など、もし四季がなかったら「豊かさ」を感じたり、表現したりすることもできないかもしれません。

子育て中にも季節は大いに関係してきますね。体調の変化や着るものの対応など悩ましいものもあれば、成長を祝うお節句や行事など楽しいものもありますね。季節を意識して暮らすということをぜひ、お子さんと楽しんでほしいと思います。



そんな季節を細かく分けた『二十四節気』を皆さんご存知ですか？「立春」「夏至」「冬至」「大寒」など、カレンダーでもよく見かけますね。ごくごく簡単に言うと、古代中国から伝わる太陽の動きをもとに1年を24等分した呼び方です。その他に二十四節気のそれぞれを3等分し、日本の気候に合うように名称変更された「七十二候」や季節をよりの確につかむための「雑節（節分・彼岸・土用など）」というのがあります。

近いところでいうと2月18日に『雨水・うすい（雪から雨へと変わり、降り積もった雪も解けだす頃）』を過ぎ、3月6日に『啓蟄・けいちつ（大地が温まって、冬ごもりから目覚めた虫が顔を出す頃）』を迎えます。そして3月21日に『春分』となります。

こんなふうに実はとっても細かく季節に関する名称があるのですね。それだけ人は昔から季節や自然に寄り添い、移ろいを感じながら生きてきたということだと思います。便利になった現代でも、変わらず季節は私たちの身近に存在してくれています。肌で感じること、自然と暮らしがつながっていることを私たちは子どもたちやさらにその子どもたちにも伝えていきたいですね。

季節・四季を意識しておうちでなにかおもしろいことをやっている方がいたら、ぜひ教えてください！！

次回の公園くらぶは…

『春をみつけてみよう♪』

いつもより早めの3月13日（火）です。

みんなで季節をいっぱい感じましょう！

